令和６年度 農林水産関係試験研究事後評価結果（令和５年度終了課題）

大分県農林水産研究指導センター

【農業部門】

所属	課題名	研究結果	評価結果
農業研究部	天敵を活用した「おおば」の害虫防除体系の構築(R3～R5)	・3種のアザミウマの発生、食性及び薬剤感受性を確認 ・有効な防除方法を解明 ・総合防除体系マニュアルを作成	・普及指導員による現地指導
	黒ボク土壌地域における根深ネギの黒腐菌核病の防除体系の確立(R3～R5)	・黒腐菌核病に効果の高い殺菌剤として５系統14剤を選抜 ・定植時期毎の防除体系を確立 ・ドローンによる黒斑病の防除では、背負式動力噴霧器と同等の効果が得られる一方で、ホバリング直下の葉折れ及び無風条件下でのドリフトの発生を確認 ・試験結果を基に現地で活用しやすい防除暦の形でマニュアル案を作成	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用
	西日本一の夏秋ピーマン産地を支える抵抗性品種の選抜及び栽培技術の確立(R3～R5)	・TSWV抵抗性品種の増収技術を確立 ・青枯病抵抗性さららの有望系統を選抜	・普及指導員による現地指導
	根深ネギの大苗育苗技術を利用した新たな栽培体系の確立(R3～R5)	・夏期の生育安定化技術を確立 ・新たな栽培体系に適した大苗育苗技術を確立	・普及指導員による現地指導
花きグループ	新しい生活様式に対応した新規花き品目の探索と品目選定(R3～R5)	・有望花木類の栽培技術を確立 ・有望花きの電照等による開花調整技術を確立 ・少量培地栽培の夏作品目の選定と栽培技術を確立	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用
	花き類における省力的防除技術体系の構築(R3～R5)	・アザミウマ類及びタバコノミハムシに対する有効薬剤を選定 ・ホオズキにおける天敵資材の防除効果を確認	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用

令和６年度 農林水産関係試験研究事後評価結果（令和５年度終了課題）

大分県農林水産研究指導センター

【林業部門】

所属	課題名	研究結果	評価結果
林業研究部	スギ・ヒノキさし木苗の生産性向上に関する研究(R3～R5)	・コンテナ直ざし生産において、元肥利用は発根に影響がなく、苗高及び根本径成長において促進効果があること及び追肥に効果があることを確認 ・品種により発根の開始時期・速度、成長量等に差があること、元肥を利用することでミニ穂でも育苗期間１年で規格到達の見込がある品種があることなど、特定苗木の品種の特性を確認	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用
	大分県に適した早生樹の苗木生産・育林技術の開発(R3～R5)	・コウヨウザンの優良系統候補木５系統について、寝伏植栽によるさし木に利用可能な萌芽枝の発生を確認 ・コウヨウザンに適した獣害対策を確認	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用
	低コスト造林施業推進に向けたスギ優良品種の材質特性の解明(R3～R5)	・スギ特定母樹(県日出３号、県佐伯６号、県佐伯13号、県日田15号)の樹幹内の材質や強度分布を明らかにした。 ・令和３年当時の県推奨品種であるシャカイン、ヤマグチについて、植栽密度による材質に及ぼす影響は、品種の影響に比べて小さいことを確認	・生産原課・室による事業化
	大径材の多様な利活用に向けた乾燥技術の開発(R3～R5)	・315㎜角の大分方式乾燥及び255角の天然乾燥では、800日程度で含水率が20%程度になることを確認 ・心去り材は心持ち材と同様に、大分方式乾燥や高温乾燥を選択することも可能であることを確認	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用
きのこグループ	廃菌床等を利用した低コストシイタケ栽培技術の検討(R3～R5)	・廃菌床を体積比で50%混合しても発生量や品質は既存の培地と同等であることを確認 ・廃菌床50%混合の場合、栄養体量の2割削減や3回の繰り返し利用でも同等の発生量が期待できる	・普及指導員による現地指導
	発生量増大を目指したほだ木育成管理技術の確立(R3～R5)	・１年起しを行う時期による極端な発生量の差がないことを確認 ・過去の市販3品種の発生データを分析したところ、8月中旬から9月中旬の雨量と発生量に正の相関がみられた ・上記以外の市販2品種を使用して同時期に散水を行ったところ、1年目の発生量が増加することを確認	・普及指導員による現地指導 ・次期試験研究計画に活用

令和６年度 農林水産関係試験研究事後評価結果（令和５年度終了課題）

大分県農林水産研究指導センター

【畜産部門】

所属	課題名	研究結果	評価結果
畜産研究部	早期出荷のための子牛育成及び肥育技術の確立(R3～R5)	・4～6カ月齢の間に人工乳2kgと育成飼料2kgを給与した区は、体重シグマ値が高く推移したことから体重を向上させる可能性があると思われ、早期肥育に供する素牛生産に寄与できることを確認 ・肥育前期にバイパスたんぱくを添加した飼料給与により、25か月齢出荷でも慣行と遜色ない枝肉成績を達成できることを確認	・普及指導員による現地指導
	周年親子放牧に適した牧草種による周年放牧の実証(R3～R5)	・トールフェスクは、オ-バーシードや蹄耕法等の簡易な造成法には適さないが、機械耕で造成することで、バヒアグラスと同等の牧養力があり、牛の嗜好性も問題ないことを確認	・普及指導員による現地指導
	肥育豚への籾米サイレージおよび未利用資源給与技術の確立(R3～R5)	・一般配合飼料にイネSGSを40%又はイネSGSを30%＋生ヘコを10%混合しても、発育成績及び枝肉成績に影響はなく肥育後期の飼料コストを最大18%削減できる ・イネSGS及び生ヘコを給餌しても、食味に影響はないことを確認	・普及指導員による現地指導

【水産部門】

所属	課題名	研究結果	評価結果
水産研究部	IoT等の新技術を活用した有害・有毒プランクトン対策(R3～R5)	・赤潮発生時に赤潮カメラで海水を撮影し、RGB値を解析したところ赤潮の水色を捉えることができた。 ・イムノクロマト法を用いた簡易分析キットによる貝毒検査により、貝や有毒プランクトンの種類によらずに毒の検出をすることができることを確認	・普及指導員による現地指導 ・生産原課・室による事業化 ・次期試験研究計画に活用
	ヒラメ耐病性家系の選抜育種(R3～R5)	・耐病性を持つ個体を探索 ・育種価（成長）を用いた優良家系を育種	・公社等への技術移転 ・次期試験研究計画に活用
北部水産グループ	ヒジキ『完全養殖技術』の開発(R3～R5)	・新たな資材を用いた養殖技術を検討 ・人工種苗の量産化を検討 ・収穫済みロープの再利用化技術を検討	・次期試験研究計画に活用